

7511-16

まちづくり主役子どもに

団塊世代の活用を

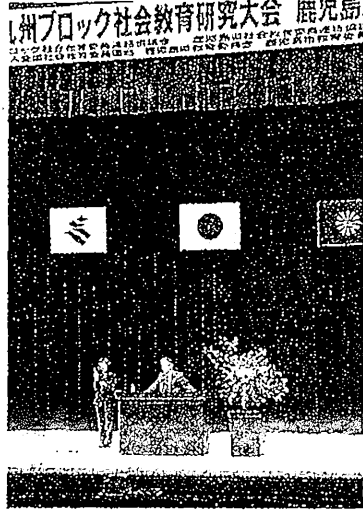
九州ブロック社会教育大会で提言

鹿児島市

鍵」と指摘した。
二年後から大量定年を迎える団塊世代に關連して、福留氏は高齢者や老

人に代わる言葉として、生涯現役で地域貢献しようとする生き方を表す「創年」の使用を提案。団塊世代による「創年活動」の広がりを期待した。青少年育成分科会でも「団塊世代のボランティアをどう生かすかが課題」と問題提起した。福留氏は生涯学習について「知識を身に付けたら、次はそれを地域に生かす『呼吸』のようなもの。呼吸した方が長続きする。教えることは二度学ぶことだ」と話した。

鹿児島市で十七日に始まった第三十五回九州ブロック社会教育研究大会は最終日の十八日、分科会報告や記念講演などがあつた。講演では講師の聖徳大教授で同大生涯学習研究所長の福留強氏が「子どもをまちづくりの主役だ」と提言した。講演と分科会の両方で「団塊の世代」の定年問題が取り上げられ、退職後の地域づくりへの活用が重要との意見が続いた。



さまざまな意見や提案が相次いだ九州ブロック社会教育研究大会

福留氏は「コミュニケーション形成に果たす社会教育の役割、住民主役のまちづくりの動向から」と題して講演。特産品のウメについて学校で調べたことを市民講座で教える中学生たち、公民館で料理教室の講師をする中学生、美術館で解説を担当する中高生、歴史的な街並みを大学教授らに案

内する小学生たちの例を紹介しながら、「教えられればかりが子どもではない。子どもたちを地域づくりにかわらせることが重要」と述べた。青少年育成の分科会でも、助言者の城間勝・那覇市立寄宮中学校長は「大人がルールを敷くのではなく、子どもが参画する割合をいかに増やすかが